

信州の環境にやさしい農産物認証 栽培事例（水稻）

地域（標高）	伊那市（740m）
土壌（土性）	

項目	生産計画の内容	補足メモ																													
1 栽培 状況	(1) 品目	水稻（品種：コシヒカリ）																													
	(2) 面積	913.8 a																													
	(3) 栽培戸数又は労働力	1戸																													
	(4) 栽培期間	平成26年4月～平成26年9月																													
	(5) 収穫期間	平成26年9月5日頃～平成26年10月10日頃																													
	(6) 収穫量	H25実績 48,660 kg（うち出荷量：39,660 kg） H26計画 51,995 kg（うち出荷量：51,995 kg）																													
2 栽培 方法	(1) 土づくり	土壌診断に基づく施肥設計																													
	(2) 播種	平成26年 3月25日～4月28日																													
	(3) 育苗	平成26年 4月28日～5月末日																													
	(4) 田植え	平成26年 4月28日～6月10日																													
	(5) 施肥	<p>○化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌診断結果に基づき、地帯別の施肥設計により基肥（鶏糞）の施肥量を調整する。 <p>肥料の施用状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量(kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素 うち化学由来</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鶏糞</td> <td>360</td> <td>10.1</td> <td>0</td> <td>15.1</td> <td>10.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>360</td> <td>10.1</td> <td>0</td> <td>15.1</td> <td>10.8</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>低減率 (%)</td> <td>100</td> </tr> </table>	肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)			窒素 うち化学由来	リン酸	加里	鶏糞	360	10.1	0	15.1	10.8							合計	360	10.1	0	15.1	10.8	地区慣行施肥量 (kg/10a)	11.0	低減率 (%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量(kg)																													
		窒素 うち化学由来	リン酸	加里																											
鶏糞	360	10.1	0	15.1	10.8																										
合計	360	10.1	0	15.1	10.8																										
地区慣行施肥量 (kg/10a)	11.0																														
低減率 (%)	100																														

2 栽培方法

(6) 病虫害防除

○化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術

- ・カメムシ、ウンカに対する防除回数を低減するため、畦畔除草をタイミングを見計らって実施。

○技術を導入する際の考え方

- ・稲が出穂から登熟に至る際の甘い汁をねらって飛来するカメムシ等の棲み家として、畦畔雑草を残しておくことで、畦際の被害を防止することを図る。

病虫害防除の内容

	使用農薬名	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	地域慣行農薬使用回数
殺虫殺菌剤	Dr. オリゼ [®] フェルテラ箱粒剤	50	2	1	2			
殺菌剤	タフロック	200		1	1	1		5
殺虫剤								3
除草剤	トップガン [®] 粒剤	1	4	1	4			4
植調剤								
				合計	7	1	0	12

農薬の使用回数	6
地区慣行農薬使用回数 (kg/10a)	12
削減率 (%)	50.0%

(7) 雑草防除

乗用除草機による除草

(8) 水管理

(9) 収量の状況

収量は、平年並みが見込まれる。
生育は5日ほど進んでいる。

(10) その他特記事項

3 販売状況

(1) 主な販売地域

県内

(2) 販売方法

直接販売、委託販売

(3) 県認証の活用方法

容器包装類への貼付、名刺への印刷

(4) 実需者や消費者の反応、メリット

実需者からは、県認証の米を求められている。(固定客もついているため)

始めた動機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県認証の取得は最近であるが、現在のような環境にやさしい農産物づくりは18~19年くらい前から行っている。 ・ 始めた動機は、小さなころに遊んでいた川に水棲昆虫がいなくなったことに気づき、化学合成農薬等環境に負荷を与えている慣行栽培にも一因があると考え、水田の水棲生物の生息環境を守り、子供たちに残してやりたいとの思いがあったことから始めた。
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境にやさしい農産物づくりは、自分だけで行うのではなく、地域全体で行ってこそ意味のあるもの。（自らが農薬低減していても、隣接する水田から、農薬が流れ込んでしまえば本末転倒） ・ 慣行栽培と比較して、手間がかかっていることを実需者や消費者にもっと知ってもらいたい。 ・ 県認証を取得した農産物にプレミアムが付けば（高く売れることになれば）、取り組む農業者も増えるのではないかと。

<栽培暦>

作業	1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
耕起施肥							—————															—————														
育苗 ~ 収穫										育苗												収穫														
病虫害防除										—————																										
除草													ほ場						畦畔																	
土づくり 施肥	※上記の「耕起施肥」と同じ。																																			

ここがポイント！

- ・ 土壌診断に基づく施肥設計により、基肥(鶏ふん)の施用量を調整している。
- ・ 乗用除草機による除草
- ・ 畦畔雑草は、カメムシ、ウンカに対する防除を低減するため、畦畔除草をタイミングを見計らって適期除草する。
- ・ 稲が出穂から登熟に至る際の甘い汁をねらって飛来するカメムシ等の棲み家として、畦畔雑草を残しておくことで、畦際の被害を防止する。

<栽培状況等の写真>



<乗用除草機>



<ほ場の様子>

